

## 令和4年度 第2回 教育研究所運営に関する懇話会 議事録

◆ 日 時 令和5年1月11日(水) 10:00~11:30

◆ 会 場 教育研究所 第1研修室

◆ 出席者

|         |        |                     |
|---------|--------|---------------------|
| 座長      | 星野 洋司  | (大津中学校校長)           |
| 運営委員    | 井上 泉   | (大楠小学校校長)           |
| 〃       | 伊藤 学   | (横須賀総合高等学校校長)       |
| 〃       | 島貫 修二  | (大津小学校校長) 欠席        |
| 〃       | 松山 雅彦  | (北下浦中学校校長)          |
| 〃       | 川上 誠   | (教育指導課長)            |
| 教育研究所職員 | 阿部 優子  | (教育研究所長)            |
| 〃       | 矢本 歩   | (教育情報担当課長)          |
| 〃       | 白井 宏一  | (主査指導主事)            |
| 〃       | 田山 雅也  | (主査指導主事: 研修・調査研究担当) |
| 〃       | 浅見 浩   | (指導主事: 理科教育担当)      |
| 〃       | 濱田 広治  | (係長: 管理運営係)         |
| 〃       | 伊東 誠司  | (主査指導主事: ICT活用推進担当) |
| 〃       | 三ツ堀 幸正 | (主査: ICT環境整備担当)     |

他 主査指導主事2名  
指導主事4名

◆ 傍聴者 なし

◆ 次 第 (司会: 教育研究所 主査指導主事 白井、記録: 会計年度職員 棚橋)

1. 開会
2. 所長・担当課長挨拶
3. 議事進行上の確認事項  
傍聴に関する確認
4. 議事
  - (1) 令和4年度 教育研究所 事業報告
    - ① 令和4年度教育研究所の基本方針、重点・・・(阿部・矢本)
    - ② 研修・調査研究担当事業について・・・(田山・浅見・白井)
    - ③ 管理運営係事業について・・・(濱田)
    - ④ ICT活用推進担当事業について・・・(伊東)
    - ⑤ ICT環境整備担当事業について・・・(三ツ堀)

(2) 今後に向けて

5. 連絡
6. 閉会

[資料]

1. 教育研究所運営に関する懇話会構成員名簿
2. 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
3. 令和4年度 要覧 p 1 「令和4年度 教育研究所の運営の基本方針・重点」
4. 令和4年度 教育研究所 成果と課題
5. 教育研究所諸事業に関する意見用紙

---

◆ 議事録

1. 開会（進行：主査指導主事 白井）
2. 教育研究所長・教育情報担当課長挨拶
3. 議事進行上の確認事項（進行：星野座長）  
教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領  
傍聴者なし
4. 議事：令和4年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑
  - (1) 令和4年度教育研究所の基本方針・重点・予算概要説明 阿部・矢本
  - (2) 研修・調査研究担当事業について説明 田山・浅見・白井
  - (3) 管理運営係事業について説明 濱田
  - (4) ICT活用推進担当事業について 伊東
  - (5) ICT環境整備担当事業について 三ツ堀
  - (6) 質問・意見等

(0 : 46 : 29)

星野議長：ありがとうございました。ただいまの報告について一括して質疑応答をとりたいと思います。何か質疑がありましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。続いて意見要望がありましたらお願いしたいと思います。もし何かありましたらお願いしたいのですが。意見要望もございませんか。よろしいでしょうか。では続きまして今後のところに移ってよろしいでしょうか。今年度の懇話会はこれで最後になりますので、各委員の皆さまよりお話をいただければと思っております。名簿の順番でお願いしたいと思います。まず井上先生から一言ずつお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

井上校長：はい。ではよろしく申し上げます。改めまして大楠小学校の井上です。ぜひ本年もまたよろしく申し上げます。意見要望といったところについては特にございません。小学校・小学校の校長会は、研究所の先生方にはひとかたならぬ、本当に沢山のお世話になっております。本当にありがとうございます。特に昨年末、丁度一カ月前になりますが、行われました校長会と研究所の共催研修ですね。こちらにつきましては、昨年は人材育成をテーマに廣山容子先生に来ていただきながら本当に楽しい実りあるいい研修を行うことができました。ありがとうございました。この共催研修についてなんですけど、小学校では校長としてまた人間として見識を深めていくための研修というような、そんなことをテーマに、わりと教育の分野から離れた方を講師にお招きしながら研修をしているようなところがあります。前年度はセブン銀行の役員に来ていただいてお話を伺い、その前はコロナ前ではあったのですがけれども落語家の方に来ていただいたり、あとは海洋科学者、ウミガメの研究者の方に来ていただいてお話を伺ったり、そんなことをしてまいりました。実は次年度の研修についてもそろそろ講師の選定が始まっているところです。また正式に決まりましたら研究所の先生方にもご報告相談しながら進めていきたいと思っておりますが、今のところ市内在住の宮川久美さんというピアニストの方にお越しいただいて実際にピアノ演奏もしていただきながら研修をしていこうかと考えているところです。また来月2月14日の校長会では学習インポートルについての説明ということで担当の指導主事の方に来ていただいて、お話をいただく形になっております。ぜひよろしくお願いしたいと思います。では本年度もあと二カ月半。本当に僅かとなってまいりましたが今後ともぜひ小学校の校長会よろしく申し上げます。私からは以上です。ありがとうございました。

星野座長：ありがとうございました。続きまして総合高校伊藤学校長先生お願いできますでしょうか。

伊藤校長：はい。丁寧なご説明をいただきましてありがとうございました。研究所の事業の様子が大変よくわかりました。ありがとうございました。ご説明いただいた内容

のなかで、本校としても考えていかなければいけない内容がいくつかあるのかなと感じましたので、そこにも関わりながら少し話しをさせていただきたいと思います。冒頭に阿部所長からご説明がありましたが、コロナ渦における研修の仕方の方向性については研究所は併用しながら進めていただいて、私達にとってもたいへん参考になりました。数年前には予測ができなかったことではありますが、オンラインで研修を行ったり、あるいは会議を行ったり、ということが日常的に行われるようになってきましたので、私達の感覚としても、オンラインでできるものはオンラインで良いのではないかと。特に校長の立場で言いますと、校長が学校を留守にするというのは大変なリスクを伴うことになるわけですので、私は必要ないのであればできるだけ学校を離れたくないなという思いが常々あります。例えば、県内の総合学科の校長会の会議などを、今回はオンラインでできそうだからオンラインにするなどです。オンライン化の動きがどんどん進んでいますが、全てがオンラインで済むかというところではない。ということは教育研究所の研修を見てもよくわかります。所長の説明の中にも、同期が一堂に集まってというような話がありましたが、やはり人と人が対面することによって生まれるもの、あるいは現場でなければ見ることができないもの、感じるできないもの、これらについては当然現場で対面で、ということになると思います。オンラインのシステムそのものも非常に精度が高まっていますので、グループ会議ができるようになったり、というようなこともありますので、進化しているシステムの中で今後は更にこのオンライン会議・研修のやり方について研究していく必要があるかと思えますし、我々が校内で行う会議などについても、より効率的に有効に進められるためにはどうしたらいいか、ということを考えていかなければいけないと感じました。それから今日説明をさせていただいた資料の中で、研修・調査研究担当の資料の2ページの「学校組織の活性化と人材育成を図る研修」というところを見ますと、受講者に校内研修に関わった正規職員数の割合というのが昨年と比較する割合で出ていますけれども、例えば初任者研修などにおいては残念ながら昨年度よりも数値が下回っているような状況があります。これについては教育研究所に全てお願いするということではもちろんありませんので、本校ではどうなのかを改めて検証して、校内でしっかりと研修体制をしていけるように、引き続き学校でやるべきことはきちっとやっていきたいと思っています。次に、学校・高校の中で非常に課題として感じることを一つ申し述べておきたいと思うのですが、GIGA スクール構想がこれからどんどん進んでいきます。先ほどの説明ですと、中学校等においては2年が経ちました。小学校等においては1年経ちました。ということで、中学校3年生のレベルで言いますと、今の中学校3年生は GIGA スクール構想2年生と、2年経験している生徒ということに表現して良いかと思えます。これが数年経つにつれ

て3年経験者、4年経験者、いずれ小学校1年生からずっと GIGA スクール構想の1人1台端末を経験して、9年間1人1台端末を経験した中学校3年生が高校にあがってくる。そういう構図になっていきます。高校では情報課の授業を中心に、その端末を利用した授業を進めている状況ですが、それが毎年毎年変化というか進化をしていくわけですので、情報課の教員も中学校の事情を十分に理解しながら高校での教育課程を考えていかなければいけない。更に課題を言いますと、学習指導要領等で指導する内容が示されているわけですが、現状正直なところで申し上げますと、地区によってあるいはもう少し言いますと学校によっても中学校3年生のレベルでの状況が微妙に異なっているような現状があることを高校としては実態として把握をしています。今後、高等学校において情報課の授業をはじめとする情報教育を進めていく中で、中学校3年生でどういう状況まで学習が進んでいるのかということ常を把握していく必要がありますし、できることであれば教育研究所を中心に、あるいは教育指導課などとも連携していただきながら、小学校1年生から中学校3年生までの GIGA スクール構想に則った教育課程をより現状にふさわしいものにしていただきながら、高等学校をはじめ、小中学校以外にもこれが見えるような教育を今まで以上に進めていただけるとありがたい。私からは以上です。

星野座長：伊藤先生ありがとうございました。続きまして北下浦中学校松山先生お願いいたします。

松山校長：みなさんどうもありがとうございました。説明を聞かせていただきまして、いろいろな風景がよみがえってきております。教育研究所の皆さんには、学校のニーズをいろいろ酌んでいただき、学校に寄りそっていろいろな研修をしていただいていると感謝しています。特に私が今勤務している北下浦中のような小さい学校ですと、校内で研修するといっても先生方自身の持っている分掌が非常に多いというところもあり、初任者の指導を含めて若手の先生方をどういうふうに指導していくかと非常に悩ましく思っております。例えば教科の面で言っても一人教科というのが本校だと4人くらいいます。また、複数の教員がいるといっても、本校ですと多くて2人です。そういう中で、自分の教科について誰に学習をしていく場を求めたらいいかということが非常に悩ましいところがあります。特に今は学校職員の分布のほうも50代の方から再任用されているような経験豊富な方と、反対に20代から30代前半までというところにピークがあるという二極化傾向があります。どうしても2人の教員が、若い先生とベテランの先生という組み合わせでなかなか上手く絡み合っていないという悩みを本校はもっています。そういったところで言うと中堅層でいらっしゃる研究所の指導主事の皆さまに色々なところで入っていただくことが何よりも私達にとっては力をいただけるとことであると思っております。今もやっつけていただいている

のですが、引き続き年次研修の先生方に寄りそった形で、学校でどんなことを課題としてもっているのかを聞き取っていただき、順次研修に生かしていただきたいと思っています。2点目ですが、優れた授業をぜひ若い先生に見て欲しいと私は強く思っています。ただ、優れた授業のデータベース化というのは、様々なことを考えていきますと、非常にお金もかかるし時間もかかってしまうというところで、経済効果からすると真っ先に切られるようなところだと私も重々承知しているのですが、やはり色々な講師の色々な授業を見させていただくと、「ああ、この授業は小中高関係なくぜひ見てもらいたいな」と思う授業に出会うことがあります。そういったものをデータベース化できないものかと感じることが多いです。先ほど話題にもありましたが、オンデマンドを活用するという環境が整ってきていますので、そういった意味で、優れた授業を発掘し、先生方の授業を撮ることで、オンデマンドで授業を視聴できる場面というのを作っていくと良いのではないかと考えております。是非ご検討をいただければというふうに思っております。最後に研究会の課題というところで、話をしようと思えます。組織ですが、だんだん研究会の中心に位置する先生が若くなってきている、というところがあります。今までどちらかというと「あうん」の呼吸でやってこれたものが、いろいろと説明しないと研究会が回っていかないというような場面を多く経験するようになってきます。今私は県の技術・家庭科の研究会の会長を務めさせていただいているのですが、その中でも中心は本当に20代から30代前半になっています。そういう中で、どう研究を進めていくのかというノウハウがコロナという状況と相まってだんだん継承できなくなっているということを感じています。これには様々な理想があると思うので、研究会によってこんな考え方もあるかと思えます。研究会と直接研究所の事業が絡むことではないと思うのですが、様々な面で教育研究所の先生方に研究会の顧問として入っていただく場面が多々あるかと思えます。そういったところでは、最初の話と重なるのですが、ぜひ研究会のほうのバックアップ体制についてもお力をお借りできたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。私からは以上です。

星野座長：松山先生ありがとうございました。続いて教育指導課川上課長お願いいたします。

川上課長：はい。私のほうは同じ事務局として毎回同じフレーズから始まるんですが、教育研究所各担当各事業と密接な関係ということで指導課のほうは対応させていただいているところです。特に研修・教育の情報化、この2点に関わってかなり密接に関わっているのではないかと思います。話を聞いておりました。教職員の資質能力向上というところでは、例えが良いかは分かりませんが研究所がインプット、私達指導課がどちらかというとアウトプットの的な役目を担いながらの両輪でやっている。研究所の研修を通じた内容をですね、授業や様々な実践の

中で指導課の年間の授業観察ですとか学校訪問等で先生方の授業、校長先生方のお話等を聞きながら進めているというところの中で、高校のあたりはより連携を深めて進めていきたいと思っております。また教育の情報化というところでは、1人1台端末の活用というところで、様々な所でご発言がありましたけれども、新しい学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現、そこから出てくる教科目標の達成、更に本課の最重要目標である学力向上、それに繋がっていく視点としては非常に有効なツールであると考えております。そういった意味では教育情報担当課、様々なところでタイアップしながら授業の質を高めて効果的な活用に繋げていきたいと思っておりますし、先ほど伊藤校長からお話がありましたように、もう少し主観的な目で見ても、やはり9年間の学び・1人1台端末を使った教育課程の編成というところあたりも一つの課題として、今後考えていく必要があるかなと思っております。また校務支援システムで言えば、進路事務、通信簿、出席簿等、そういった部分を教職員の負担軽減と事故防止といったところで本課と非常に関わってきていると思っておりますので、更なる連携の必要性を感じています。課題としては、様々な課と密接な関係の中でグリーゼンがしやすいところがありますので、そのグリーゼンをできるだけ作らないように、また、グリーゼンがでてきたときに学校また先生方に負担感にならないような形で更なる連携を進めていく必要があるかなと感じていますので、今後ともよろしく願いいたします。以上です。

星野座長：川上課長ありがとうございました。では最後に私のほうから少しお話をさせていただきます。先生方のほうからもいろいろな話がありましたが、教育研究所の方からも細かな説明をありがとうございました。今後の中でも教員の資質能力という点では、授業力・教師力という部分でこれから多くの評価がされてくるのかと思っております。今後も年次研修を含めて様々な分野で多くの研修を行ったり、工夫をしたりしてほしいと思っております。特に本校でもこのところ新採用教員に関しては、他地区から来ている方が多く、仲間がいない中で同世代というところでは、年次研修の効果がでていうふうに感じています。同じ世代で同じ悩みを抱えている教員達も、そういう場面でいろんな力をつけていければと思っております。また1人1台端末に関しても、伊藤校長が言われているように、今後9年間、小学校中学校9年間で端末を使った授業を経験した子どもが、どんどん増えていく中では、我々のほうももっと工夫しなければならないところでは、教育研究所からも多くの力をお借りしながら、切磋琢磨していかなければいけないかなと思っております。様々な課題がこれからもまだまだ出てくるかと思っておりますが、ぜひともまた皆さんのお力を合わせて今後ともやっていければなと思っております。私のほうからは以上です。以上で協議のほう終了したいというふうに思います。皆さんご協力ありがとうございました。